

第1611回（6月7日）

新技術と経済性評価

——キウイフルーツの追熟技術に
関する事例——

高橋克也・吉田泰治

現在、多くの研究機関で新技術開発が行われており、農産物・食料品にかかわる技術開発についても、極めて基礎的な研究から直ちに普及実用に供せられる研究まで様々な試験研究が行われている。これらのうち、実用化技術については実用に供するにあたって技術面とともに経済性について検証を行うことが求められる。

本稿では、数年前に開発され現在一部の産地で実用に供されつつある「キウイフルーツの追熟技術」を例として、こうした新技術開発の経済性について検討するとともに生産、流通上の問題点についても検討を加えた。

その結果、品質は価格に反映すると仮定して推計を行った場合、追熟キウイフルーツは出荷時期全般にわたって高い単価をつけており、安定的に推移していることが確認された。また産地段階でも追熟キウイフルーツの出荷は収益の増加に寄与していることが認められた。しかし全体としてみた場合、評価の点ではまだ十分といえる水準には達していないのが現状である。

これらの大きな理由の一つとして、卸売市場や販売店などの流通関係者及び消費者にキウイフルーツが追熟果実であるとの認識を持っていないことがあげられる。また同時に、生産、流通段階でも追熟生理・技術に対して正しい理解がされていないことも追熟キウイフルーツが市場に浸透しにくい大きな要因の一つとなっている。

これら問題の解決のためには広告宣伝活動といった販売促進によって消費者に直接、追熟キウイフルーツのおいしさを訴えるような活動が必要である。産地段階においては追熟

化を生産の一環として位置づけ取り組む必要がある。それとともに流通段階においても追熟品に対応した新たな流通システムの整備という課題が残されている。